

台風第19号により浸水・冠水した農作物等の技術対策について

○ 共通事項

- ① 浸水、冠水を受けた農作業機械や設備等は、販売店等に依頼して動作確認を行う。
※水抜きができていない状態でエンジンを始動したり、電源を入れたりすると、重大な故障や事故に繋がるので注意する。

1 水稻

- ① 浸水、冠水したほ場では、コンバインの破損を防ぐため、流入した流木やゴミ等はできるだけ除去する。
- ② 冠水(穂まで水をかぶった)ほ場や、浸水により倒伏したほ場は刈り分けを行う。また、収穫・乾燥調製、保管は被害を受けなかったほ場と区別する。
- ③ 浸水・冠水・倒伏したほ場では、付着した土壌によりコンバインの刈り刃破損や過大な負荷がかかる可能性があることから、刈取作業は状況に合わせゆっくりと実施する。
- ④ 株元に土砂やゴミが溜まっている場合は、高刈りや別刈りし、ゴミ等の混入を避ける。
- ⑤ 籾に付着した土壌粒子は、収穫乾燥後も付着したままとなり、調製時の籾の流動性が劣りベルト等の過負荷による故障が多くなるので留意する。

2 大豆

- ① 莢が水に浸かった状態が長引くと腐敗粒、くず粒が多発するため、浸水、冠水したほ場では、速やかに排水を実施する。

3 麦類

- ① 出芽期に数日冠水すると幼植物が枯死することから、浸水、冠水したほ場では、速やかに排水を実施する。
- ② 冠水により発芽が不揃いとなったほ場は、播き直しする。

4.1 露地(野菜・花き共通)

- ① 排水後、液肥の葉面散布等を行い生育の維持、回復を図る。
また、浸水や冠水で畑の土がしまっているため、耕耘が可能になったら、速やかに追肥・中耕を行う。
- ② 茎葉等に泥土が付着している場合には乾かないうちに動噴等を利用して、清水で洗い流した後、殺菌剤を散布する。

4.2 施設(野菜・花き共通)

- ① 暖房機や灌水設備などが浸水、冠水した場合は使用前に点検を行い、必要に応じて修理・交換等を行う。
- ② 過湿によって根が酸欠状態になって樹勢が弱っているため、液肥の葉面散布を行う。生育状況を確認

して追肥を行い，草勢の維持，回復に努める。

- ③ 茎葉等に泥土が付着している場合には乾かないうちに動噴等を利用して，清水で洗い流した後，殺菌剤を散布する。
- ④ 樹勢が弱っているため，果菜類は小玉で収穫するなど，負担を軽減させる。また，急激な日射や高温によって萎凋症状を起こす場合があるので，遮光資材等を用意し日射量や施設内の温度を調節して樹勢・草勢の維持を図る。
- ⑤ 土壤水分が多く過湿になりやすいので，換気を行い，施設内の湿度の上昇を防ぐ。

5 果樹

- ① 倒伏した樹は根が乾かないうちに速やかに起こし，支柱で支える。枝が裂けた場合は裂開部を縄やかすがいなどで接着する。損傷が激しい場合には，切り落として塗布剤を塗る。
- ② 土砂の体積が多い場合には，幹周りを中心に土砂を取り除く。
- ③ 浸水等により枝葉に付着したごみや泥は，清水をかけるなどして取り除き，病害の伝染源になるのを防ぐ。
- ④ 枝葉の損傷が著しい場合には，殺菌剤を散布する。

6 飼料作物

- ① 浸水した牧草や飼料イネは，排水後ほ場の回復を待ち，できるだけ早く刈り取り，土砂等の汚れがないものは飼料として利用する。この場合，サイレージの品質向上を図るため，乳酸菌等の添加により発酵を促す。
- ② いずれの草種においても浸水のあった農地からの収穫物は，品質低下の懸念があるため分けて保管・管理するよう努める。
- ③ 草地や牛舎周辺に積んでいるラップサイロのフィルムが破損した場合は，早急に補修専用の粘着テープで補修する。
- ④ フィルム破損や冠水等で飼料が変質した場合は，給与せず廃棄する。

7 家畜

- ① 畜舎内及び周辺の排水と流入した土砂の除去を行う。
- ② 畜舎等の破損，汚染状況を確認し，必要に応じて補修，洗浄，消毒を行うとともに，飲水に適した水の確保や家畜の健康観察を徹底し，伝染性疾患の早期発見と予防に努める。